

ルカの福音書 15回
イエスのバプテスマとイエスの系図
ルカ3:21~38

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスの公生涯は、バプテスマのヨハネの登場から始まる。
- ②ヨハネは、「荒野で叫ぶ者の声」として人々の心を整えた。
- ③イエスが登場し、ヨハネからバプテスマを受ける。
- ④次に、イエスの系図が紹介される。

2. アウトライン

- (1) イエスのバプテスマ (21~22 節)
- (2) イエスの系図 (23~38 節)

3. 結論

- (1) イエスの祈りの生活
- (2) イエスの系図の神学的意味

イエスのバプテスマとイエスの系図について学ぶ。

I. イエスのバプテスマ (21~22 節)

1. 21~22 節

Luk 3:21 さて、民がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマを受けられた。そして祈っておられると、天が開け、

Luk 3:22 聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」

(1) ここで、主役はヨハネからイエスに移行する。

- ①バプテスマがイエスの公生涯の始まりとなる。
- ②この時点では、すでに多くの人々がヨハネからバプテスマを受けていた。
- ③イエスのバプテスマは、ヨハネの奉仕のクライマックスである。
- ④並行箇所と比較すると、ルカの記録は非常に短い。
- ⑤ルカは、バプテスマそのものよりも、2つの重要な点を伝えようとしている。

*イエスに、聖霊の力が与えられた。

*イエスに、父なる神の承認が与えられた。

(2) 聖霊が下ったことの意味

- ①イエスの上に聖霊が下り、メシアとしての奉仕に必要な力を与えた。
- ②クリスチャンも、聖霊によってクリスチャン生活に必要な力を受ける。
 - * 聖霊の内住
 - * 聖霊の賜物

(3) 父なる神からの声 (バット・コル)

- ①ルカ3:22 (父なる神は30年間イエスを観察し、イエスを喜ばれた)
- ②ルカ9:35 (ペテロが3つの仮庵を立てることを提案した時)
- ③ヨハ12:20~28 (ギリシア人がイエスと面会することを求めた時)
- ④「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ」(22節)
 - * 詩2:7とイザ42:1の合体
 - * 中間時代のユダヤ教は、この2つの箇所をメシア預言と理解していた。
- ⑤天からの声は、イエスにメシアとしての自己認識を与えた。
- ⑥メシアは、根源的な意味で、神の子である。
- ⑦メシアは、主のしもべである。
 - * 登場して最初に行ったのは、ヨハネからバプテスマを受けることである。
 - * サタンは、イエスが本当に主のしもべであるかどうかを試す。
- ⑧クリスチャンの自己認識
 - * 神の子
 - * キリストのしもべ

(4) ルカだけが、バプテスマの直後にイエスが祈ったことを記している。

- ①ルカは、人の子イエスを描こうとしている。父なる神への全き信頼。

II. イエスの系図 (23~38節)

1. 系図の重要性

(1) 身元証明

- ①イスラエルに帰還しようとする人は、自らのユダヤ性を証明する必要がある。
- ②現代のユダヤ人は、系図を持っていない。
- ③ほとんどの場合、ラビの推薦状がその役割を果たす。

(2) 土地の所有権の証明

- ①部族、氏族、家族に応じて、土地が分割された。

(3) 祭司職の証明

- ①アロンの家系であることが、祭司の条件である。
- ②歴代誌の系図は、その視点が反映されたものである。

(4) 王位の証明

- ①イスラエルの王は、イスラエル人でなければならない(申17:15)。
- ②ダビデ以降は、ダビデの家系でなければならない(2サム7:16)。
- ③ヘロデ大王は、エドム人であったために、正統性がない。

*マタ2:2~3

Mat 2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来しました。」

Mat 2:3 これを聞いてヘロデ王は動揺した。エルサレム中の人々も王と同じであった。

(5) メシア性の証明

- ①メシアは、アブラハムの子孫、ダビデの子孫でなければならない。

2. 23節

Luk 3:23 イエスは、働きを始められたとき、およそ三十歳で、ヨセフの子と考えられていた。ヨセフはエリの子で、さかのぼると、

(1) 「イエスは、」(And Jesus himself)

- ①イエスのご人格に注意を向けさせる代名詞(autos)(himself)が使われている。

(2) 「働きを始められたとき、」

①訳文の比較

「教えを始められたとき、イエスはおよそ三十歳で、」(新改訳)

「イエスは、働きを始められたとき、およそ三十歳で、」(新改訳2017)

「イエスが宣教を始められたときはおよそ三十歳であった」(新共同訳)

「イエスが宣教をはじめられたのは、年およそ三十歳の時であって、」(口語訳)

- ②直訳は、「始められたとき、」である。
- ③イエスはおよそ30歳でメシアとしての奉仕を開始された。
- ④ルカは、イエスの年齢に幅を持たせている。
- ⑤「30歳」は、祭司としての働きを開始する年齢である。

(3) ルカの系図は、イエスの母マリアの系図である。

- ①ルカ1~2章は、ヨセフよりもマリアが主役である。

- ②女性の名は通常系図には出ないので、マリアの夫ヨセフの名が登場している。
 - ③この系図は、イエスから始まり、アブラハムを経て、最後はアダムに至る。
 - ④ルカの福音書は、異邦人のために書かれた福音書である。
 - ⑤ルカは、イエスが全人類の救い主であることを示そうとしている。
- (4) 「ヨセフの子と考えられていた。ヨセフはエリの子で、さかのぼると、」
- ①ルカの福音書の読者は、ヨセフがイエスの義父であることをすでに知っている。
 - ②原文は、「son of Joseph」である。定冠詞の「the」が付いていない。
 - ③それ以降は、「the (son) of Eli」と定冠詞の「the」が付いている。
 - ④学者の説明では、「定冠詞」がない場合は、系図から外れている。
 - ⑤エリは、ヨセフの実父ではなく、義理の父である。つまり、マリアの父である。
 - ⑥イエスは、肉体的にはマリアの子である。
 - ⑦イエスは、肉体的にアブラハムの子孫、ダビデの子孫である。

3. 24～38 節

(1) マタイの系図

- ①イエスの系図を3つに区分し、記憶しやすいようにした。
- ②区切りは、ダビデ（人物）とバビロン捕囚（出来事）である。
- ③ $14 \times 3 = 42$ であるが、登場するのは41人である。
- ④ダビデの名が、第一区分の最後と、第二区分の最初に出てくる。
- ⑤系図の中に省略がある。旧約聖書では一般的。

(2) ルカの系図

- ①イエスからアダムまで、77人が登場する。
- ②ルカは銘記していないが、7人×11区分という編集意図がある。
- ③上から順に見てみると、区分の終わりか初めに重要な人物が登場している。
- ④アブラハムは、3区分目の最後に登場している。
- ⑤ダビデは、5区分目の最後に登場している。
- ⑥ルカもまた、既存の系図を利用して、自らの意図に沿って編集した。

結論

1. イエスの祈りの生活

*イエスの祈りの生活は、ルカの福音書の主要テーマである。

- (1) ルカ 3 : 21 (バプテスマを受けたとき)
- (2) ルカ 5 : 16 (名声が広まったとき)

Luk 5:16 だが、イエスご自身は寂しいところに退いて祈っておられた。

(3) ルカ 6 : 12 (12使徒の選抜のとき)

Luk 6:12 そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

(4) ルカ 9 : 18 (弟子たちから信仰告白を引き出す前に)

Luk 9:18 さて、イエスが一人で祈っておられたとき、弟子たちも一緒にいた。イエスは彼らにお尋ねになった。「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか。」

(5) ルカ 9 : 28~29 (変貌山にて)

Luk 9:28 これらのことを教えてから八日ほどして、イエスはペテロとヨハネとヤコブを連れて、祈るために山に登られた。

Luk 9:29 祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。

(6) ルカ 11 : 1 (主の祈りを教える前に)

Luk 11:1 さて、イエスはある場所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」

(7) ルカ 22 : 31~32 (ペテロのために)

Luk 22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。

Luk 22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

(8) ルカ 22 : 40~41 (ゲツセマネの園にて)

Luk 22:40 いつもの場所に来ると、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。

Luk 22:41 そして、ご自分は弟子たちから離れて、石を投げて届くほどのところに行き、ひざまずいて祈られた。

2. ルカの系図の神学的意味

(1) ルカの系図は、イエスからアダムまで遡っている。

(2) ルカの系図は、イエス・キリストが全人類の救い主であることを示している。

(3) 逆に見ると、アダムが初めであり、イエスが最後である。

①最初のアダムは、不従順なアダム。

②最後のアダムは、従順なアダム。

(4) クリスチャンは、最初のアダムから分離し、最後のアダムにつながった。